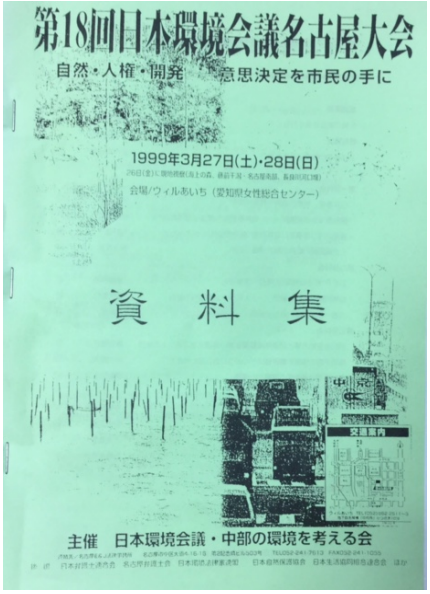
日本環境会議名古屋大会の思い出

毎年 3 月末になると思い出すことがある。いまから 17 年前、1999 年 3 月 27～28 日にウィルあいちで行われた「第 18 回日本環境会議名古屋大会」である。写真は大会の手づくり「資料集」だ。いまも大切に取ってある。



大会の事務局長を務め、慣れない「大役」に悪戦苦闘したことが忘れられない。大会のテーマは「自然・人権・開発　意思決定を市民の手に」である。このテーマを決定するまでに何回も議論を重ねた。環境団体間の「意見調整」に戸惑った。

久しぶりに大会プログラムを眺めると、「時代」を反映したテーマ設定だった思う。いちばん苦労したのが、4 つの分科会の設定であった。当時の環境問題の焦点とともに、名古屋をはじめとした東海地域に特有の環境問題にどう迫るかをめぐって、白熱した議論をしたことが思い起こされる。

大会プログラムを紹介しよう。27 日（土）全体会Ⅰでは、宮本憲一教授の基調講演、五十嵐敬喜教授の特別講演に続き、分科会 1「公共事業の転換を求めて」、分科会 2「公害問題の新たな展開」が行われた。その後の「エコパーティ」も名古屋らしさを出したものだ。とにかく「手づくり」と「エコ」のホットな大会をめざした。

2 日目 28 日（日）は、分科会 3「環境アセスメントを市民の手に」、分科会 4「環境と正義・自然」に続き、全体会Ⅱで淡路剛久教授の総括講演などが行われた。事務局的な仕事と分科会 1 と全体会Ⅱの司会を務め、疲れ果てたが貴重な経験をさせてもらったと考えている。

大会前日の 26 日には、海上の森、藤前干潟、名古屋南部、長良川河口堰の 4 か所の現地視察を企画した。この地域で焦点になっている公害・環境問題を全国各地の人に知ってもらう企画だ。各地域の環境団体にお世話になった。

私は長良川河口堰「担当者」となり事務局を務めた。アウトドア・ライター天野礼子さんや河口堰に反対する人たちに、案内などをしてもらった。現地視察で忘れられない思い出がある。名古屋駅の新幹線口付近が集合場所であったが、早くから座って待っておられたのが、あの宇井純先生だった。直接お会いするのは初めてであり、緊張気味に話しかけた。もう一人は、原田正純先生だ。先生ならではの鋭い質問をされていたのを記憶している。お二人の先生のやさしさ、「鋭さ」を近くで見ることができた現地視察であった。今から考えると、これも大会事務局ならではの体験だったと思う。

（2016 年 3 月 29 日）